

## 「現代における学生支援の課題と展望」の概要

- (1) 研究委員会（課題研究）の名称  
「現代における学生支援の課題と展望」研究委員会
- (2) 研究代表者：川島啓二（国立教育政策研究所）
- (3) 研究組織（敬称略）  
川島啓二（国立教育政策研究所）  
沖 清豪（早稲田大学）  
望月由起（お茶の水女子大学）  
田中 岳（九州大学）  
小貫有紀子（九州大学）  
串本 剛（東北大学）  
小島佐恵子（北里大学）  
青野 透（金沢大学）
- (4) 研究期間：平成23年度～
- (5) 課題研究の目的及び研究委員会設置の事由

### ◎課題研究申請の背景

学生支援は、教育と研究を支える基盤として、大学において重要な役割を果たしてきた。そのことに加えて、近年の学士課程教育改革の中で「学習者中心の大学」が求められるに至って、学ぶ主体としての学生の、積極性、協調性、コミュニケーション能力等を高める機能としての学生支援（ピア・サポートなど）に注目が集まったり、正課・正課外を通して学士課程全体を通じての統合的な学生支援によって、学士課程教育の成果に貢献していくという観点が提起されたりするようになった。このような状況は、政策レベルでも課題として認識されており、中央教育審議会大学分科会においては、学生支援検討ワーキンググループが設置され、その議論がこの間の報告書に反映されている。

学生支援に関する学長の意識を、日本学生支援機構による直近の調査から見てみると、学生支援は「正課の学習に好影響を与えている」「学生の人的成長に貢献している」「大学全体の活力を高めている」「大学経営の観点からも必要なものとなっている」といった項目について、肯定回答（「強くそう思う」＋「ある程度そう思う」）が9割前後を占め、また、「今後、学生支援により一層力を入れていきたい」については、肯定回答がほぼ100%で、強い肯定回答（「強くそう思う」）が約85%に達している。（後掲グラフを参照）学生支援の必要性については、ほとんど学長職の間では共通認識となっており、実践的・具体的な方策や学士課程教育の中での位置づけが課題となってきた。まさに、課題研究として設定するニーズは極めて高いと思われる。

### ◎研究の目的

本課題研究（「現代における学生支援の課題と展望」）の目的は、学生の多様化や大学教育改革の進展によって、その広さと深さを急速に増しつつある学生支援の現状と課題について理論的・実証的に分析と検討を行ない、今後の展望を得ようとするものである。研究組織メンバーの殆どは、日本学生支援機構「大学等における学生支援取組状況調査研究プロジェクトチーム」（平成21～22年度）のメンバーでもあり、我が国の学生支援の

現状について、広範かつ包括的なデータによる調査・検討を経験している。このたび、同プロジェクトチームの終了に伴い、その成果を、本学会が豊富に持つ実践的な知見に引き寄せて検証し、大学教育における学生支援の今後のあり方についての理論面・実践面における有用な知見を得るべく、本研究委員会の設置を申請するものである。

#### ◎研究の方法

主に実践事例とその方法の共有、さらには理論的位置づけを主として展開していくこととするが、研究委員会での検討の中で、学会員に対する質問紙調査も手法として留保することとする。

また、学生支援は非常に幅の広い領域なので、研究課題として採択された場合も、それぞれの領域で積極的に活動されている学会員の参加を求め、研究委員会を質・量の両面で充実させていくことにも留意する。

奨学金問題を中心とする、学生に対する経済的支援の問題については、非常に重要な問題ではあるが、高等教育へのアクセスの平等性を含め、それ自体が極めて大きな社会的問題かつ研究的課題であるので、学生支援の領域と構造の定位を図る本課題研究においては、中心的にフォーカスすることはしないこととする。（もちろん、関連して取り上げることはありえる。）

図1. 自校の学生支援についての学長の認識  
(日本学生支援機構による平成22年度調査結果から)

